

(様式3)

5 今年度の重点課題(学校アクションプラン)

令和6年度 富山中部高等学校アクションプラン - 1 -	
重点項目	学力の向上
重点課題	①教育目標の実現のため、深い学びを目指した授業を行う。また、教育課程の実施状況を評価してその改善を図っていく。 ②生徒がテスト等によって学力を自己分析し、主体的に学習を進めることができるよう指導助言を行う。
現状	①授業力の向上を目指して互見授業等を行い、教科別授業研究会の充実に努めている。 ②課題をこなすことに終始し、テストによる学力分析と事後対策が不十分な生徒が多い。
達成目標	①授業力の向上を図るため、互見授業を行ったり、教科別授業研究会を行ったりする。 教育課程研究委員会において、新教育課程の実施状況とその効果を評価する。 ②各種テストの見直しを行い、その後の学習計画を自主的に作成・修正し、実践できた生徒の割合 (学習アンケート) 70%以上
方策	○互見授業を全教員に対し公開する。 ○互見授業終了後、教科別授業研究会を開催し、3年間を見通した指導法や指導目標を共有する。 ○SSHの取組により開発した探究的な手法を普通教科の授業にも導入する。 ○教科横断型授業のための教材を、他教科と連携して開発する。 ○個々の学力や進度に応じた教材について、研究開発をさらに進める。 ○定期的に生徒の学力や学習実態を分析し、授業方法の改善をはかる。 ○読解力・思考力・判断力・表現力等を育むような質の高いテスト作りに努める。 ○校内模試においてテスト解説授業を実施し、テストを見直す意識を高めるとともに、その後の学習の指針を示す。 ○テストの見直しにより、学習活動におけるPDCAサイクルの徹底を図る。 ○担任や教科担当者による個別指導の充実に努める。 ○新入生合宿で高校での学習法をしっかりと身につけさせる。

評価基準 A達成した Bほぼ達成した Cあまり達成しなかった D達成しなかった

令和6年度 富山中部高等学校アクションプラン - 2 -	
重点項目	進路意識の高揚と進路希望の実現
重点課題	①広い視野に立ち、自己の将来像に連なる明確な進路目標を見つけさせる。 ②第一志望をあきらめず、難関大学への進学に向けて主体的に努力できる生徒を育む。
現状	①全員が大学への進学を希望している。しかし、進路に関する視野が狭く、志望する大学や学部により偏りが見られる。男女問わず、より広い知識やグローバルな視点を持たせたい。 ②高い目標を維持させるために、具体的な目的意識やその達成に至る道筋の具体的なビジョンを得させることが必要である。
達成目標	①自己の将来についてより広い視野に立って考えることができる ②難関10大学+国公立大学医学科への出願者および合格者の割合 ・講演会・大学探訪・海外研修・探究活動を通して、新しい学問分野や進路の存在を知る。 ・自分と自分を取りまく社会や世界についての理解を深め、それに基づいて自己の将来像を描く。 難関国立10大学と国公立大学医学科に出願し合格する。 ①3年在籍生徒数に対する出願率 55%以上 ②3年在籍生徒数に対する合格率 30%以上
方策	○2学年の7月に「アメリカ研修」、8月に「大学探訪」を行い、知的刺激を与え、視野を広げさせる。大学探訪では、大学生(卒業生)から話を聞き、具体的なビジョンを構築させる。 ○海外の大学などについても情報を提供する。 ○自己の将来像について具体的なイメージを持たせるとともに、進路に関する視野を広げさせるため、1学年の生徒(および2学年の希望者)に対し進路講演会を行う。 ○面接指導や学年集会、および進路に関する行事を通して、早い時期から高い進路意識を持たせるよう指導する。また3学年では個別指導を強化し、生徒一人一人が志望大学の要求する学力に到達するように努める。 ○第1志望への合格を実現させるために、教員全員の体制で添削指導や難関大講座などを展開し、生徒一人一人にきめ細かく支援する。

評価基準 A達成した Bほぼ達成した Cあまり達成しなかった D達成しなかった

令和6年度 富山中部高等学校アクションプラン - 3 -	
重点項目	読書指導・体力の向上
重点課題	①読書指導を充実させ、図書館及び図書の利用を促進する。 ②体力の向上に努めさせる。

現 状	①探究活動や授業、進路研究などで資料や情報を収集し利用する機会が増えている。しかし、日常的に生徒が図書資料を検索するまでに至らず、図書資料を利用しているとはいえない。 ②体力の低下が危惧される生徒が増えてきている。	
達 成 目 標	①レファレンス（資料や情報を求める人への支援）を利用した数 100人以上	②2年次において、持久走の自己最高記録を更新した生徒の割合 70%以上
方 策	○蔵書検索システムをオリエンテーションや読書の時間、広報で生徒に周知し、主体的に活用できるよう支援する。 ○探究的な学習活動や授業、生徒の進路研究等と連携し、資料や情報の提供を適宜おこなう。	○全学年、体育の授業時に、毎時10分間程度のサーキットトレーニングを実施する。 ○前年度の自己記録を参考に今年度の自己目標を明確にし、体育の授業や部活動などで意欲的なトレーニングに結びつける。

評価基準 A達成した Bほぼ達成した Cあまり達成しなかった D達成しなかった

令和6年度 富山中部高等学校アクションプラン - 4 -

重点項目	学校行事・部活動の充実	
重点課題	①ホームルーム活動を充実させる。 ②部活動をより充実させる。	
現 状	①ホームルームの時間においては、討論と読書を行っている。討論では、各ホームで決めたテーマについて思考を深め、意見交換を行っている。読書では年間の冊数を決めてあらゆるジャンルから知識や教養を深めている。半期に一度の統一ホームルームでは、全校生徒が同一テーマについて話し合い、後日冊子にまとめている。 ②全校生徒に対し、いずれかの部に所属するよう勧めている。生徒は自己実現や人間的な成長のため、学習と部活動を両立させようと努力している。	
達 成 目 標	①充実したホームルーム活動を行う。 ・生徒が主体的に実施し、積極的に参加できるような活動にする。 ・自身について、社会について思考を深め、活発な意見交換が行われる場とする。	②部活動に充実感を得た生徒の割合 *1、2年生部活動加入者を対象にした、2学期終了時のアンケート 70%以上
方 策	○ 討論や読書に対する取り組みについて、各ホームにおいて常に評価し、改善を図る。 ○ 統一ホームルームにおいて、ホームルーム運営委員を中心に役割分担し、活発な意見交換を行う。	○ 部活動への参加を積極的に促す。 ○ 限られた時間の中での、効率的な練習や活動を普段から考えさせる。 ○ 個々の生徒が、学習と部活動のバランスを取りながら活動できるよう、ホーム担任と部顧問が連携を取って指導する。

評価基準 A達成した Bほぼ達成した Cあまり達成しなかった D達成しなかった

令和6年度 富山中部高等学校アクションプラン - 5 -

重点項目	学校教育全体を通じた「探究力」の伸長		
重点課題	①外部と連携した課題研究を充実させる。 ②教科横断型授業「中部アカデミックス」を実施する。 ③データサイエンス（DS）に関する授業を実施する。		
現 状	①県庁や様々な企業と連携しながら課題研究を行ってきたが、継続的な取組になっていない。 ②これまでに2回教科横断型授業が行われた。（国語、世界史、化学、美術） ③探究科目において、情報技術に関する授業を実施している。		
達 成 目 標	①継続的に外部人材と連携しながら、課題研究を行う。	②複数の教科で教科横断型授業「中部アカデミックス」を実施する。	③1年生ではDS探究（基礎）、2年生ではDS探究（応用）、3年生ではDS探究（発展）の授業計画を作成し、実施する。
方 策	○テーマ選びから外部人材に関わってもらう。 ○検証方法や考察の段階でも指導・助言をもらう計画を立てる。	○各教科で教科横断型授業に適する単元をまとめる。 ○教科横断型授業に適する単元のマッチングリストを作成する。 ○教科横断型授業の指導案を作成する。	○専門家の助言の下、データサイエンスに関する授業計画を立てる。 ○特別授業等を利用して実施し、効果を検証する。

評価基準 A達成した Bほぼ達成した Cあまり達成しなかった D達成しなかった